

授業科目(ナンバリング)	介護概論ⅠB(介)(DA112)			担当教員	浦 秀美・※井手 伸二 オムニバス		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授 業 の ね ら い							アクティブ・ ラーニング の 類 型
本授業は、<u>介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習内容となる。</u>具体的には、介護の「尊厳の保持」、「自立に向けた支援」、「介護を必要とする人」、「介護を必要とする人の生活を支えるしくみ」、「協働する多職種の役割と機能」をキーワードに介護を生活の観点から捉え理解を深めることと、介護を必要とする人を、生活者として考え、介護の生活について理解することをねらいとする。そして、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。							①④⑧
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	介護福祉士としての専門的な知識・技術を修得し、介護理念に則り、現在の課題に適応して解決するための介護として捉えることができる。					課題レポート 小テスト	20% 30%
情報収集、分析力	介護に関連する情報を収集し、それらを分析する能力を身につけることができる。					課題レポート	20%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	様々な事例の課題に対して、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。					事例検討、発表	10%
多様性理解力	ディベートや事例検討を通して、自分との違いを認識し、立場の状況の違いから多様性について理解することができる。					事例検討、発表 課題レポート	10% 10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポート(50%)と事例検討、発表(20%)、小テスト(30%)で評価する。 課題レポートは、自分の介護観のまとめ、授業内容についてまとめる課題レポート内容の正確性、課題分析力、自分自身の考えを評価する。一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院での集中講義レポートは、課題レポートの40%を占める。事例検討、発表(ディベート)は、提示された事例への取り組み姿勢、意見等の発表回数、多様性の理解など総合的に評価する。なお、発表に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。							
授 業 の 概 要							
利用者の尊厳を支える介護、自立に向けた介護等の考え方について学んでいく(ディスカッションも行う)。介護や福祉の語句等の持つ意味を理解した上で、理解を深める学びとする。「自立に向けた介護、協働する多職種の役割と機能、介護を必要とする人の生活を支えるしくみ、介護を必要とする人の理解」の内容を、是真会長崎リハビリテーション病院にて、回復期リハも含めた集中講義(見学も含む)で学ぶ。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座3『介護の基本Ⅰ』中央法規出版株式会社 介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座4『介護の基本Ⅱ』中央法規出版株式会社 介護福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会(2018)『介護福祉士国家試験受験ワークブック2019上』中央法規出版株式会社 参考書：『国民の福祉と介護の動向』厚生統計協会(近年の統計動向の確認時、本書を活用する) 指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座3『介護の基本Ⅰ』中央法規出版株式会社 介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座4『介護の基本Ⅱ』中央法規出版株式会社							

授業外における学修及び学生に期待すること			
本講義は、授業4回分を一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院にて講義を行います。患者さん一人ひとりにリハビリを実践されており、介護福祉士も一役を担っています。最先端の技術や実践する病院の理念、そこで働く専門職の姿勢等、様々なことを学ぶ機会となります。介護の概論やその基礎となる理念の学びを自分のものとし、利用者主体に考える考え方を身につけて欲しいと思います。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	自立に向けた介護①	介護概論ⅠAでの学びから、自立支援、尊厳保持の介護について理解を深めていく。集中講義での介護におけるリハビリテーションの概論をまとめる。(浦)	予習：急性期・回復期・慢性期について調べる。
2	自立に向けた介護② 協働する多職種の役割と機能①	社会生活を送るうえでのサービス、職種との関わりの必要性を学び、リハビリテーションは全人間的復権であり、生活機能を向上させることを理解する。(井手)	予習：リハビリテーションについて調べる。
3	自立に向けた介護③ 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①	回復期の流れを受け、在宅や施設で生活を始める維持期における、施設や在宅でのリハビリテーションについて、その取り組みを考える。(井手)	予習：回復期リハビリテーション病院
4	自立に向けた介護④ 介護を必要とする人の理解①	自立に向けた介護として、介護職が行うリハビリテーションを学ぶ。同時に介護におけるリハビリテーションの意味を考える。(井手)	復習：現地での授業・見学後にレポートを作成提出
5	自立に向けた介護⑤ 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②	急性期から引き続いて、退院までの過程で行われる病院におけるリハビリテーションを学び、チームアプローチの実践を通し、関わる様々な職種の役割について理解する。(井手)	前期授業・定期試験内容を確認しておく
6	尊厳を支える介護①	人間の尊厳、人間尊重について、介護におけるQOLの考え方を学ぶ。(浦)	予習：QOLについて調べる
7	尊厳を支える介護②	社会福祉の普遍的思想であるノーマライゼーションの考え方について学び、ノーマライゼーションの実現に向けてその課題を考える。(浦)	復習：ノーマライゼーションについて
8	尊厳を支える介護③	利用者のその人らしさの尊重や実現のための個別ケアについて、考え方を学び、個別ケアの具体的な取り組みや展開等を考えていく。また、介護過程についても学ぶ。(浦)	復習：個別ケア、健康の定義、ICFを確認する
9	介護を必要とする人の理解①	健康は人間にとって大切な課題である。健康の概念について学び、疾病や障害も含め健康生活も考えていく。加えて、人間の基本的欲求等も学ぶ。(浦)。	復習：マズローの基本的欲求についてまとめる
10	介護を必要とする人の理解②	多様な生活習慣や生活様式があることを学び、人間の多様性・複雑性を理解する。生活は住環境だけでなく、家族や地域、社会その他の様々な環境とその影響があることを学ぶ。(浦)	予習：人の多様性について自身の生活史を考える
11	介護を必要とする人の理解③	利用者の生活史を学び、高齢者の価値観や生活感を考えながら、現在の高齢者の生活課題や高齢者の介護について考えていく。(浦)	復習：生活史と高齢者の生活について、ICFとICIDHの確認する
12	介護を必要とする人の理解④	ICFの考え方から、障がいをもつ人の生活について理解を深める。障がいをもつ人の生活課題やそれを支える介護や支援について考えていく。(浦)	復習：障害を持つ人の生活とその支援について確認する
13	介護を必要とする人の理解⑤	障がいをもつ人や高齢者等の家族も、介護専門職の支援を必要とする人といえる。要介護者を抱える生活について、家族の立場から考えていく。(浦)	復習：家族への支援について確認する
14	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③	介護を必要とする人々に合わせ、様々な制度やサービスが提供されるようになってきた。具体的な利用法を中心に、介護福祉サービスについて学ぶ。(浦)	復習：介護保険利用について確認する
15	介護従事者の安全	介護を必要とする人を支えていくために、利用者の事故防止は勿論だが、安全の確保や感染予防、介護者自身の健康管理等が必要なことを学び、安全で安心できる介護の大切さを考えていく。(浦)	復習：安全確保・事故防止、自己管理について確認する